

水産海洋地域研究集会

第17回 広島湾研究集会

－ 干潟生態系の保全・再生・創生 －

共 催：一般社団法人水産海洋学会，広島大学大学院生物圏科学研究科・流域圏環境再生プロジェクト研究センター，(研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所，広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター，(研)産業技術総合研究所地質調査総合センター，

日 時：2016年12月16日(金) 13:00～17:30

場 所：広島市市民交流プラザ

コンビーナー：山本民次(広大院生物圏)，首藤宏幸(水産機構瀬水研)，相田 聡(広島水海技セ)，高橋 暁(産総研地質情報)

挨拶：中田 薫(一般社団法人水産海洋学理事) 13:00～13:05

趣旨説明：山本民次(広大院生物圏) 13:05～13:10

話 題

座 長：相田 聡(広島総研水海技セ)

1. 底生生物が支える干潟の生態系機能 13:10～13:40

佐々木晶子(元広大院生物圏)

2. 干潟漁場における生物生産と生物多様性 13:40～14:10

内田基晴・辻野 睦(水産機構瀬水研)

3. 広島県沿岸の干潟におけるアサリ増養殖の取り組み 14:10～14:40

伊藤 篤・山崎英樹・浜口昌巳(水産機構瀬水研)・高橋 暁(産総研地質情報)

－ 休 憩 － 14:40～14:50

座 長：高橋 暁(産総研地質情報)

4. 瀬戸内海における人工干潟造成について 14:50～15:20

富安真一郎(国交省中国地方整備局)

5. 干潟造成材に活用可能な石炭灰造粒物の材料特性と適用効果 15:20～15:50

中本健二・樋野和俊(中国電力(株))

6. 施肥によるアサリ生産増大の可能性 15:50～16:20

山本民次・伊藤友也(広大院生物圏)・中原真也・平岡喜代典・大道優平(広島県環保協)・

清田忠志(日の丸産業(株))

7. 榎野川河口干潟における順応的取り組み 16:20～16:50

惠本 佑(山口県環境保健センター)

総合討論

座 長：山本民次(広大院生物圏)・首藤宏幸(水産機構瀬水研) 16:50～17:30

開催趣旨：2015年10月の瀬戸内海環境保全特別措置法の大改正により，流入負荷削減のみの施策から，瀬戸内海を「道」，「畑」，「庭」とみなす，いわゆる「里海」的発想に基づく環境修復へと大きく舵が切られた。瀬戸内海の歴史の中で，高度経済成長時の埋立によって浅場が喪失したことにより，生態系に対して大きな影響があったことは疑いのないことであり，このたびの法改正でも，失った浅場の回復が重要課題となっている。干潟によって呼吸する干潟は人間の肺に例えられるように，その代表的機能として海水への酸素供給と有機物の酸化分解による浄化という重要な役割を担っていると考えられている。研究集会では，干潟の基本的な機能について学び，現在行われている干潟再生のプロジェクトについて情報交換するとともに，今後の干潟の維持・管理，人工干潟造成についての手法や計画などについて考え，議論する場としたい。